

十四、少年及兒童保護事件

臺灣各地方法院 104 年審理少年及兒童保護事件計終結 50,883 件，較 103 年減少 2.15%，其中屬少年保護事件 49,641 件，屬兒童保護事件 1,242 件，分別較 103 年減少 1.68% 及 17.86%。

104 年受保護處分人數計 10,797 人，較 103 年減少 7.51%，惟感化教育人數卻有增無減，較上年增加 3.32%。就保護處分情形觀之，以保護管束 4,445 人最多，占保護處分總人數之 41.17%，訓誡並予假日生活輔導 2,889 人(占 26.76%)次之，訓誡 1,799 人(占 16.66%)居第三，保護管束並命勞動服務 826 人(占 7.65%)名列第四。

104 年少年及兒童保護事件之保護原因，前四項依序為自制力不足(占 47.49%)、交友不慎(占 15.29%)、管教不當(占 6.59%)、缺乏法律常識(占 5.83%)，其餘如性衝動所占比率在 4.17% 左右。而觸犯刑罰法令行為者，其家庭經濟狀況屬勉足維持生活及低收入戶者達六成七，教育程度則以高中(職)程度(含畢業及肄業)為多。

表 2.11 臺灣各地方法院少年及兒童保護事件終結件數及保護處分情形

單位：件；人；%

年別	終 結 件 數			保 護 處 分 情 形 (人)						
	總計	少年保 護事件	兒童保 護事件	總計	訓誡	訓誡並予 假日生活 輔 導	保護 管束	保護管束 並命勞動 服 務	安置 輔導	感化 教育
95 年	39 167	38 134	1 033	9 570	1 291	3 230	3 827	591	166	465
96 年	39 611	38 565	1 046	9 431	1 266	3 213	3 671	662	148	471
97 年	42 947	41 915	1 032	10 256	1 347	3 435	4 025	729	141	579
98 年	44 056	42 930	1 126	10 332	1 495	3 367	3 996	703	168	603
99 年	43 216	42 097	1 119	10 721	1 726	3 400	4 201	628	190	576
100 年	50 745	49 637	1 108	12 950	2 225	4 114	4 945	756	151	759
101 年	56 720	55 288	1 432	14 125	2 432	4 393	5 436	902	149	813
102 年	59 270	57 813	1 457	13 917	2 344	4 161	5 432	1 011	160	809
103 年	52 003	50 491	1 512	11 674	2 039	3 396	4 457	928	192	662
104 年	50 883	49 641	1 242	10 797	1 799	2 889	4 445	826	154	684
104 年較 上年增 減(%)	-2.15	-1.68	-17.86	-7.51	-11.77	-14.93	-0.27	-10.99	-19.79	3.32